令和元年7月発行(第46号)

子供たちに伝えたい日本の良さ

東京都教育庁指導部指導企画課 教育経営・教育課程担当

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会まであと1年となりました。

来年の開催を見据え、街中でもオリンピック・パラリンピックに関連するポスターやグッズ、テレビコマーシャルを目にする機会も増え、気運の高まりを感じることが多くなってきました。オリンピック・パラリンピックの開催に当たり国際社会の一員としての自覚と行動力をもち、世界の人々と交流できる人材の育成が一層求められます。そのためには、子供たちが、世界に誇る我が国の伝統・文化や最先端の技術力等を理解し、日本人としての自覚を高めることが大切です。

本資料では、世界から高く評価されている我が国の伝統・文化や、先人の優れた業績について、具体的に紹介していきます。

各学校において、本資料を様々な教育活動で活用していただき、子供たちが、改めて日本の良さを理解し、日本人としての自覚や誇りを高めることができるよう指導を進めてくださることを期待しています。

季節を楽しむ

人々は身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりすることなどを通して、四季の違いや特徴に触れています。日本では、季節の変化に応じて自然の様子や生活の様子が変わるとともに、季節の変化を日々の暮らしの中に取り入れ自分の生活を楽しくする様子が見られます。今月は、主に江戸時代における季節の変化を楽しむ様子や現代に残る季節のことばや色の表現等を紹介いたします。

江戸の花暦

江戸の地形は、山の手側に台地が広がり、台地と台地の間には川が流れ、ため池がありました。一方、下町側には隅田川の流れがあり、海にも面していました。また、町の至る所に坂と谷、窪地や池がありました。

このように、起伏に富んだ地形が、四季の移ろいをより一層豊かなものとし、大都市でありながらも少し歩けば見事な自然風景を望むことができたのです。人々は四季折々に変化する景色を楽しむために、江戸市中や近郊の名所へ赴きました。

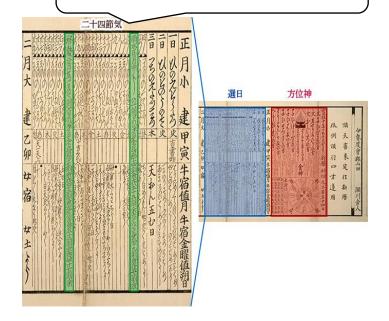


二十四節気

二十四節気(にじゅうしせっき)は、 1年の太陽の黄道上の動きを視黄経 の15度ごとに24等分して決められ ています。

全体を春夏秋冬の四つの季節に分け、更にそれぞれを六つに分けて、立春・立夏などの12の節気(せっき)と春分・夏至など12の中気(ちゅうき)を交互に配しています。太陰太陽暦(旧暦)では季節を表すために用いられていました。また、うるう月を設ける基準とされており、中気のない月をうるう月としていました。

江戸時代に作成された暦には、「雨水」「啓蟄」 等の二十四節気の記述があります。



名称	月	説明
りっしゅん	正月節	寒さも峠を越え、春の気配が感
立春		じられる。
うすい	正月中	陽気がよくなり、雪や氷が溶け
雨水		て水になり、雪が雨に変わる。
けいちっ	二月節	冬ごもりしていた地中の虫が
啓蟄		はい出てくる。
しゅんぶん	二月中	太陽が真東から昇って真西に
春分		沈み、昼夜がほぼ等しくなる。
せいめい >士 ロロ	三月節	全てのものが生き生きとして、
清明		清らかに見える。
穀雨	三月中	穀物を潤す春雨が降る。

名称	月	説明
立夏	四月節	夏の気配が感じられる。
小満	四月中	全てのものが次第に伸びて天地に満ち始める。
ざ種	五月節	************************************
夏至	五月中	昼の長さが最も長くなる。
小暑	六月節	暑気に入り梅雨の明ける頃
大暑	六月中	夏の暑さが最も極まる頃

※芒:植物の身の外殻に見られるとげのような突起

秋		
名称	月	説明
立秋	七月節	秋の気配が感じられる。
処暑	七月中	暑さがおさまる頃
白露	八月節	しらつゆが草に宿る。
秋分	八月中	秋の彼岸の中日、昼夜がほぼ等しくなる。
寒露	九月節	秋が深まり野草に冷たい露が 結ぶ。
霜降	九月中	霜が降りる頃

冬		
名称	月	説明
立冬	十月節	冬の気配が感じられる。
小雪	十月中	寒くなって雨が雪になる。
大雪	 月 節	雪がいよいよ降り積もってく る。
冬至	十一月 中	昼が一年中で一番短くなる。
小寒	十二月 節	寒の入りで、寒気が増してくる。
大寒	十二月中	冷気が極まって、最も寒さが募 る。

日本の伝統色

日本には、受け継がれてきた色彩文化があります。

僧正遍昭

『古今和歌集

それを知るには、日本語の色の名前がよい手掛かりとなります。ここでは、日本の伝統的な色 の名前が詠まれた和歌や物語を紹介します。

浅緑(あさみどり)



春に芽を吹く若葉 の黄緑色は、『万葉 集』の時代から浅緑 と呼ばれました。そ の浅緑を代表する植 物は、柳であり、正 月から春まで着用さ れる早春の色でした。

浅緑 もぬ 11 とよ け る春 りか け \mathcal{O} て白 柳 カュ

露

書い

給

紫式部

『源氏

物語』

紫(むらさき)



紫の染色には日本に自生する紫 草という植物の根を染料としてい ました。これを紫根と呼び、和紙 に包んでおくと、その和紙が淡く 染まってしまうことから、平安時 代には、紫が「ゆかりの色」と呼 ばれました。当時の人々は、紫の ように、想う人を自分の色を移し て染め上げてしまいたい、という 思いを歌に詠んでいます。

紅(くれない)

紫は 灰指 番また É \mathcal{O} 海っ 石 榴 市な

Ď

に逢

へる児や

よみ人しらず『万葉集』 巻十二

空色(そらいろ)



日本語の中に、空色、水 色、草色などの事物の名前 を借りて特定の色を表現し ようとすることが定着した のは平安時代のことのよう です。しかし、同時期の清 少納言『枕草子』では空も 水も現在の青を意味する「 碧(みどり)」と表現されて いて、区別がありません。

空い ろ \mathcal{O} 神

 \mathcal{O}

くも

らは

平安時代以降、近世に至 るまで濃い紅花染の赤はと りわけ女性のあこがれの色 でした。古来の紅の名称「 くれなる」は、中国長江地 方の呉の国から渡来した藍 (当時は藍は染料の総称で した。)を意味する「呉の藍 に由来します。

こにな出でそ思ひ死ぬ Š 言 \mathcal{O} 恐き 玉 そ紅

「江戸紫」は江戸時代、江戸郊外の武蔵野、現在の埼玉方面から東京の 多摩一帯で栽培された紫草を原料として、神田などの紫染職人たちが盛 んに染めたものです。

東京の井の頭公園の弁天堂境内には紫灯籠(むらさきとうろう)と呼ば れる一対の石灯籠があり、「江戸紫」を染め、制作した職人などの九十一 人の名前が刻まれています。また「江戸紫」といえば、歌舞伎十八番の 「助六」が締める鉢巻の色としても有名です。

東京の色:江戸紫(むらさき)



揚巻の助六

市川團十郎



ほかにも和歌や物語に出てくる日本の伝統色には、どんなものがあるかを探してみましょう。

身の回りの伝統色



上段左から鶯(うぐいす) 色、薄群青(うすぐんじょ う)、菫(すみれ)色、砂(す な)色、緋(ひ)色、

下段左から若草(わかく さ)色、桜(さくら)色、山 吹(やまぶき)色、曙(あけ ぼの)色、猫柳(ねこやな ぎ)色

日本郵便株式会社 特殊切手「伝統色シリーズ 第2集」(82円)平成 31年3月6日発行

日本の伝統色は、切手として販売もされ、気軽に目にすることができます。

季節の変化や自然に係る祝日

国民の祝日の意義や由来を知ることは、日本の伝統・文化を理解する上でとても大切 です。現在、日本には16の国民の祝日があります。これらの中には、季節の変化や自 然の豊かさに由来するものもあります。それらの意義等について御紹介します。

名称	日にち	意義
春分の日	春分日 (3月21日頃)	自然をたたえ、生物を慈しむ。
みどりの日	5月4日	自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな 心を育む。
海の日	7月の第3月曜日	海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う。
山の日	8月11日	山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。
秋分の日	秋分日 (9月23日頃)	祖先を敬い、亡くなった人々をしのぶ。
文化の日	11月3日	自由と平和を愛し、文化をすすめる。

【テーマにおける出典・引用・参考文献資料、写真提供】

- (1)「江戸の花暦」: 江戸東京博物館「常設展示図録[図表編]」(2017)
- (2) 「二十四節気」:
- ①国立国会図書館「日本の暦 (第三章 暦の中のことば 二十四節気)」

https://www.ndl.go.jp/koyomi/chapter3/s7.html

②国立天文台「暦計算室」

https://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/faq/24sekki.html

(3)「日本の伝統色」:「日本の伝統・文化」教材集一 (東京都教育委員会) 「揚巻の助六 市川團十郎」 国立国会図書館デジタルコレクション

- (4)「身の回りの伝統色」: 日本郵便株式会社 特殊切手「伝統色シリーズ 第2集」
 - https://www.post.japanpost.jp/notification/pressrelease/2019/00_honsha/0108_01.html
- (5)「季節の変化や自然にかかる祝日」: 内閣府ホームページ「国民の休日について」(抜粋) https://www8.cao.go.jp/chosei/shukujitsu/gaiyou.html
- ※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等 がありましたら、右記担当へ御連絡ください。 今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】東京都教育庁指導部指導企画課 電 話 03-5320-6869 ファクシミリ 03-5388-1733